令和４年度　奈良県立高等養護学校　学校評価総括表（年度末報告）

【特別支援学校用】

年度	令和４年（計画１年目）
教育目標	◇ 自主的・自律的な生活習慣を養い、自己肯定感を高め社会への適応力を身に付ける。 ◇ 社会参加・自立をめざし、必要な能力や態度を育てる。
年間重点目標	様々な体験活動にICT機器を組み合わせて活用することで、効果的な学びにつなげる。

運営方針	＊ 障害理解を深め、教員の専門性の向上に努める。 ＊ 社会自立と社会参加に向けたキャリア教育を推進し、生徒の実態に応じた教育課程づくりに取り組む。 ＊ 学校と家庭、地域との連携を図り、協働しながら地域にある学校づくりを進める。

奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和４年度末の目標値等(C)	令和４年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策
１．こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	障害の状態を踏まえた健康状態の保持・改善	家庭や医療機関等との連携の推進	家庭や医療機関等との連携の推進	生徒の健康状態に変化がみられた際は、教員が主治医訪問を行い、主治医・保護者・教員の３者で共通理解を図った。	A	生徒の安全を守るために、今後も取組を続けてほしい。	今後も、継続的な連携に努める。
	子どもの健康課題を踏まえた健康安全教育の充実	医療的ケアにおける研修の実施　1回	医療的ケアにおける研修の実施　年1回	学校医研修のテーマを「糖尿病」に設定した。糖尿病の種類、インスリン療法とはどのような治療方法なのか、避難時の対処について詳しく講話していただき、教員の知識を向上させることができた。	A	生徒の安全を守るために、教員の力量を高めていただきたい。	今後も、生徒の実態に合わせた研修内容を計画していく。
	食べる力を育む学校給食や食育の推進	歯磨き指導の充実、摂食指導における研修の実施　2回	歯磨き指導の充実、摂食指導における研修の計画　年２回	歯磨きは一人ずつ行い、使用後は消毒をすることを徹底させた。摂食指導に関しては、生徒集会のなかで「食」について話をし、栄要素やバランスよく食べる知識を身につけさせた。	B	新型コロナの影響で様々な制約はあると思うが、できうる限りご指導願いたい。	教員に対する研修は実施できていないため、来年度は計画・実施する。
２．学ぶ力、考える力、探求する力をはぐくむ	実態に即した授業づくりと学習評価の充実	教科会の実施　各学期５回	教科別会議　各学期２回	年間計画に教科会議が定期的に位置づけられていて、計画通り実施できた。	B	教員間での共通理解を図った上で、適切な評価を行っていただくことを望みます。	今後、各教科での３観点別の学習評価について等、校内で情報共有を積極的に行っていく必要がある。
	PDCAサイクルによる授業改善	研究授業や授業検討会の実施　３回以上	研究授業と研究討議実施、グループ研修会の実施　年６回	今年度は本校の社会科で研究授業を行い、全教員で研究討議を行った。研究の日も５回行った。授業のねらいや評価の観点を再度確認し、授業改善につながる研修会を実施することができた。	A	生徒の理解につながるように授業をしていただきたい。	次年度も研究の日を設定し、教員間での情報交換を通して、授業改善につなげる。
	ICTを活用した教育の推進	ICT機器を活用した授業の実施　１００回以上	ＩＣＴを活用した学習活動の実施　５０回	１，２年生の情報端末を中心に各授業での活用頻度が高くなってきている。今年度より順に整備されている電子黒板もその活用を開始している。	B	量だけでなく質的向上も図ること。また、生徒の機器操作能力を上げること。	情報端末活用授業について、実施回数だけでなく、その内容をわかりやすくまとめる方法を考えていく必要がある。電子黒板の活用法についても今後、情報交換等行っていきたい。
３．働く意欲と働く力をはぐくむ	小学部・中学部・高等部を通したキャリア教育の充実	キャリア教育に関する職員研修の実施　１回以上	進路や社会自立に関する研修　年１回	全教員で、個々の実態から社会自立に向けた目標を考察する会議を行った。一人一人に必要な支援や課題を共有でき、一貫した指導につなげることができた。	A	生徒の進路実現につながる研修の場としていただきたい。	今後も、先生方の指導に役立つ内容を模索する。
	福祉、労働等の関係機関と連携した情報発信	進路指導の手引きの改定　毎年完成	進路ニュースの発行　年３回	年間6回の進路ニュースを発行し、各学年の進路関係の取組や福祉サービスに関する情報提供等を掲載した。	A	これからも情報提供を続けてほしい。	次年度も定期的にニュースを発行し、啓発に努める。
	本人や保護者のニーズに応じた進路指導の充実	職場開拓と実習受け入れ先の拡充　１００社以上	関係機関及びキャリア教育コーディネーターと連携し、新規開拓事業所訪問　50社	関係機関と連携を取り、新規開拓事業所50社以上へ訪問できた。新規事業所20社に個別体験及び個別実習をつなぐことができた。	A	生徒だけではなく、卒業生の支援にも力を入れていただきたい。	新規開拓の成功を継続的な就労につなげていけるよう、こまめな訪問を行う。
４．地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティスクールの運営・推進	学校運営協議会の開催　年３回	学校運営協議会の開催　年２回	今年度は、年度の初めと終わりの２回開催となった。学校評議員会の成果を継承しつつ、協議会設置を行い、特に３つの部会を設けることでより突っ込んだ協議・意見交換を行うことができた。	A	新しい制度に変わったが、協議会の運営は円滑に行われました。	回数だけではなく、開催時の協議内容について精選を図っていく。
	地域社会とのつながりや地域資源の活用	地域資源を活用した学習の実施　年３回	学校周辺施設での緑化・美化活動 年２～３回	教育研究所、近隣の公園、飛鳥川沿い、歩道の除草や郵便局等へのプランター設置を行った。（学期に３回以上、年間活動のべ日数53日、関わる生徒のべ人数593名）	A	引き続き、積極的に地域に出て行ってほしい。	生徒たちが、地域に貢献しているという気持ちを持てるように指導していく。
	社会教育の推進	社会の仕組みや地域の施設に関する学習　年３回	学校の周りについての学習（１年生） 年３回	社会科１年生の学習で、学校周辺を散策し書きこみながら地図を完成させる活動を行った。福祉では、県営福祉パークでの福祉体験も行った。（あわせて２～３回）	A	引き続き、積極的に地域に出て行ってほしい。	地域資源を活用した学習を継続して行う。
５．地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	特別支援教育に関する理解啓発	交流及び共同学習の推進　年１０回以上	交流及び共同学習の推進　年１０回	各分教室において高校生と活動する機会（学校行事・授業・委員会や部活動）を積極的に創出し、生徒たちの意欲と達成感を引き出すことができた。	A	分教室での活動成果を本校においても生かしてほしい。	同じ場所で学ぶ高校生との心の交流を図っていく。
	奈良県いじめ対策方針に基づく防止対策の強化	いじめ防止等に係る計画の作成	いじめ防止基本方針と年間計画の作成 年１回	いじめ防止基本方針と年間計画を作成。定例の委員会で審議・情報共有するとともに、アンケート実施後のスクリーニング会議で学校カウンセラーから貴重なご意見をうかがうなど、生徒理解に向けた取組を実施した。	A	担当委員会やスクリーニング会議等を通じて、問題解決にあたっていただきたい。	いじめを許さないという姿勢のもと、未然防止に積極的に取り組む。
	個別の教育支援計画や個別の指導計画の実効性のある活用	保護者等の参画及び関係者との連携の推進	保護者等の参画及び関係機関と連携した各計画の作成　年３回	計画表の作成に向けた保護者アンケートを実施し、意向を確認しながら作成した。各学期末の懇談で計画表を元に生徒の支援について話し合い、家庭との連携を図った。	B	保護者との更なる連携が必要である。	保護者に向けて丁寧な説明を心がけ、支援につなげる。

３　評価結果の分析、今後の改善方策等

令和４年度は中期計画の初年度にあたり、年度末目標を極力実現可能なものに設定した。１年間の取組の結果、多くの項目で達成をみることとなったが、これに満足することなく次への成長に向けた目標設定を行っていく。また、達成不十分な項目については改善策を立てて実施できるよう計画に反映させていく。次年度は中間年度となるので、学校関係者（学校運営協議会委員）のご意見等をふまえ、学校としての意思統一をしたうえで、最終年度に向けた意欲的な取組に邁進する。